様式2

都市再生整備計画　事後評価シート
美馬地区

令和5年3月

徳島県美馬市

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	徳島県	市町村名	美馬市	地区名	美馬地区			面積	220ha
交付期間	平成30年度～令和4年度	事後評価実施時期	令和4年度	交付対象事業費	288百万円	国費率	0.40		

1）事業の実施状況

		事業名
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(地域防災施設)、地域生活基盤施設(広場)、高質空間形成施設(緑化施設等(緑化･カラー舗装等))
	提案事業	美馬市観光振興推進事業、多様な交流と連携の体制構築事業

		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業	美馬265号線(新設･拡幅) 美馬644号線(新設)	合意形成等に時間を要したため事業削除	影響なし
		美馬294号線ほか(拡幅) 地域生活基盤施設(情報版) 高質空間形成施設(緑化施設等(緑化･カラー舗装等))	史跡郡里廃寺跡整備計画(他事業)と一体的な整備計画を進めるため削除	影響なし
	提案事業			
新たに追加した事業	基幹事業	美馬652号線(新設)	観光交流センター（道の駅）と寺町地区等への回遊性を高めるため	増加する見込み
	提案事業			

交付期間の変更			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響
	当　初	平成30年度～令和4年度	
	変　更	-	

2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

	指　標	単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
指標1	観光交流センターの年間入り込み者数	人/年	-	H28	123,000	R4		135,000	○	あり なし	コロナ禍の影響により入り込み客が一時減少していたが、国のGotoトラベル等の事業により入り込み客が回復したことに加え、美馬652号線や段の塚穴周辺整備等により、コロナ禍以降主流となったマイクロツーリズムでの地域の魅力発信に繋がり、目標年度まで大きく落ち込むことなく指標を達成できたものと考える。	R5年5月
指標2	観光客受入寺院の年間入り込み者数	人/年	1,000	H28	1,600	R4		3,600	○	あり なし	美馬地区を代表する観光施設の一つである寺町は、コロナ禍の影響により一時入り込み者数の減少が見られたが、段の塚穴周辺の整備やNPO法人郡里交流会による主体的な取り組みにより以前から来訪していた歴史愛好家や近場の来訪者が寺町に訪れたことや、美馬観光ビューローが実施した道の駅巡りマイカーツアーにおけるツアー客の増加も後押しとなり、指標を達成したと思われる。	R5年5月
指標3	美馬地区イベントの年間参加者数	人/年	480	H28	4,600	R4		4,700	○	あり なし	これまでの道整備･環境整備に合わせてコロナ禍のマイクロツーリズム普及が功を奏し、美馬地区の訪れる人が増加したことにより、イベントの周知･認知度も向上し、指標を達成したものと考える。	R5年5月

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

	指　標	単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1												

4）定性的な効果発現状況

寺町や観光交流センターの来訪者数について、コロナ禍以降、個人利用客の案内が増加している。

5）実施過程の評価

	実施内容	実施状況		今後の対応方針等
モニタリング	事業活用調査(美馬市観光振興推進事業)	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●	定期的に調査した各評価値に基づき、目標を確認。今後事後評価の内容も含め、市の総合計画や美馬地区の計画に反映する。
官民連携による取組	高質空間形成施設 (緑化施設等(緑化･カラー舗装等)) 鍋倉谷川高水敷	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●	今後も、市民と行政が協調し、役割分担をしながらまちづくりを行う。
持続的なまちづくり体制の構築	まちづくり活動推進事業 (多様な交流と連携の体制構築事業)	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●	まちづくり関係団体等の主体的な活動の継続性を保障するため、市は後方支援を強化していく。

様式２－２　地区の概要

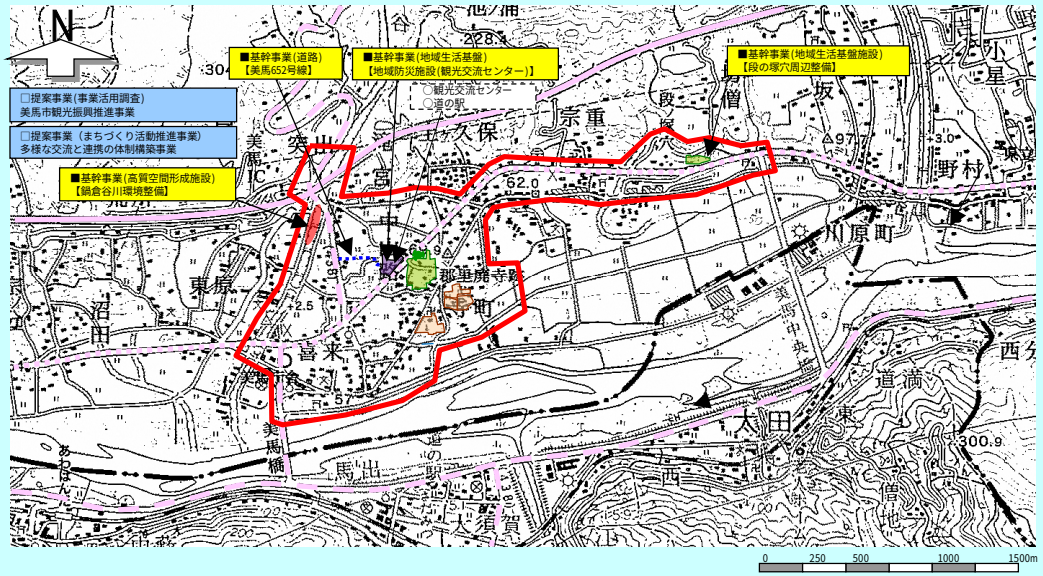
美馬地区地区（徳島県美馬市）　都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標　：　歴史文化伝説伝承を継承・保全し、歴史文化資源と観光を融合させ活性化を図る 目標１：活力ある地域社会を実現する「住んでよし訪れてよし」の観光地域づくり 目標２：独自の価値を活かした「ブランド観光地域」づくり	観光交流センターの年間入り込み者数	単位：人/年	-	H28	123,000	R4	135,000	R4
	観光客受入寺院の年間入り込み者数	単位：人/年	1,000	H28	1,600	R4	3,600	R4
	美馬地区イベントの年間参加者数	単位：人/年	480	H28	4,600	R4	4,700	R4

美馬652号線新設工事

地域防災施設整備

鍋倉谷川環境整備



段の塚穴周辺整備

凡　例
- 徳島自動車道(既存)
- 主要道路(既存)
- 史跡・文化財(既存)
- 寺院(既存)
- 道路整備(新設)
- 鍋倉谷川環境整備

凡　例
- 基幹事業
- 提案事業
- 関連事業

まちの課題の変化	・鍋倉谷川環境整備や段の塚穴周辺整備により、美馬地区の魅力向上が図られ、併せてコロナ禍におけるマイクロツーリズムの普及により、来訪者が増加した。 ・美馬652号線の新設により、観光交流センターがETC2.0を利用する個人客の気軽に立ち寄れるスポットとなり、来訪者の増加につながった。 ・それぞれの観光施設を回遊しやすくするような動線の整備ができておらず、情報板も不足しているため、地区全体の魅力向上の余地が残されている。 ・マイクロツーリズムの普及により観光客が増加したが、滞在時間が短いため地区の魅力を十分感じてもらえていない。 ・観光客増加に伴い、産地直売所の利用客のニーズが多様化している。
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）	・観光施設についての課題や魅力を再確認し、さらなる魅力向上を図る。 ・美馬地区の観光施設を回遊する動線の確保、さらに道路環境、情報板を充実させることで、それぞれの魅力の相乗効果により観光客の満足度の向上、新たな観光客の獲得を期待する。 ・歴史や文化、自然などを体験できる美馬地区ならではの観光商品の開発を行うことで、観光客の滞在時間の延長を図る。 ・産地直売所と観光交流センターとの連携により、地元特産品の種類の増加を目指す。